

しおかぜ

～第23号～

2017.6

基本理念

病める人とともに、和と向上心をもって、
総合的かつ継続的な地域医療の実現をめざします。

【目次】～CONTENTS～

- ◇新院長就任あいさつ・・・・・・・・・・P1
- ◇肝属郡医師会立訪問看護ステーションの開設に
ついて・・・・・・・・・・P1～2
- ◇ご存知ですか？病気の知識・・・・・・・・P3～P4
- ◇新任医師紹介・・・・・・・・・・P5
- ◇新入職職員紹介・・・・・・・・・・P5～6
- ◇イベント～病院の話題～・・・・・・・・P7

基本方針

- 1.垂水市の中核病院として病診連携を充実し、地域に必要な救急医療から在宅医療まで24時間体制で提供します。
- 2.垂水市の地域包括ケアの拠点として、保健・医療・介護・福祉を連携し、住民が安心して住み続けられるまちづくりに貢献します。
- 3.鹿児島へのき地医療を支援するとともに、感染症および災害発生時には地域の拠点病院としての役割を果たします。
- 4.患者の人権とプライバシーを尊重し、多職種が連携した患者中心のチーム医療に努めます。
- 5.職員ならびに地域の医療従事者の教育に努め、医療の質を高めるとともに、鹿児島の医療人育成に貢献します。
- 6.病院を健全経営し、地域住民に安定した医療を継続的に提供できるように努力します。

新院長就任あいさつ

2017年4月1日付けで垂水市立医療センター垂水中央病院の院長職を拝命いたしました竹中俊宏と申します。この場をお借りして、皆様にご挨拶を申し上げます。

垂水市は、桜島や高隈山系に抱かれた素晴らしい自然環境にある人口15,000人弱の「花と溪谷と温泉のまち」です。その市立病院として1987年に設立された垂水中央病院は、設立当初から、地元の医師会である肝属郡医師会が公設民営方式（指定管理者制度）で運営し、垂水市の地域中核病院としての役割を果たすべく努力して来ました。

昨今、本邦では少子高齢化・人口減少が大きな社会問題となっていますが、垂水市における少子高齢化・人口減少は特に顕著です。この状況の中、垂水市は、市民の皆様が健康で安心した生活を送れるよう、「地域包括ケア」体制の確立に向けた取り組みを積極的に進めており、その一環として本年4月1日に垂水市、肝属郡医師会、垂水中央病院が一体となった垂水市地域包括ケアセンターが開設されました。垂水中央病院は、今後、地域中核病院としての機能をさらに充実させるとともに、市民の皆様が垂水で安心して暮らし続けられるよう、地域密着型病院としての機能もより強化し、垂水市のまちづくりを医療の面から皆様と連携してしっかりと支えていきたいと考えています。

垂水中央病院は、質の高い医療を提供し続けるためには質の高い職員の存在が必須と考え、継続的な教育による人材育成を大きな柱のひとつとして運営しています。今後も「病める人とともに、和と向上心をもって総合的かつ継続的な地域医療の実現をめざします。」という基本理念のもと、市民の皆様が安心して暮らし続けられるよう、職員一丸となって努力したいと存じております。ご支援の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



肝属郡医師会立訪問看護ステーションの開設について

垂水市が、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる支援や体制の構築を行う拠点施設として整備した垂水市地域包括ケアセンター内に、肝属郡医師会立訪問看護ステーションが開設されました。センターの場所は、介護老人保健施設コスモス苑の一角になります。

訪問看護ステーションとは、病気や障害を持ちながら、住み慣れた地域やご家庭で、その人らしい生活が送れるように、24時間365日対応で看護師等が生活の場へ訪問し、多職種と協働しながら療養生活を支援します。利用者は、病気や障害を持つ乳幼児から高齢の方まで全ての方が対象です。医師の指示のもと、療養上のお世話や必要な医療処置などを行います。また、緊急時の対応や看取りにかかわる支援も行います。

今回新たに整備された地域包括ケアセンターには、高齢者に関する総合相談・支援を担当する包括支援センター等も設置されました。今後、このケアセンターを拠点として、垂水市で医療と介護の連携が強化されることが大いに期待されています。



● 地域包括ケアセンター入口
(コスモス苑裏側)

■訪問看護を利用できる人は？

子どもから高齢者、病状や障害が軽くても重くても、訪問看護を必要とするすべての人が受けられます。

訪問看護とは？



■訪問看護はどんなサービスですか？

訪問看護とは、看護師がお宅に訪問して、その方の病気や障害に応じた看護を行うことです。健康状態の悪化防止や回復に向けてお手伝いします。主治医の指示を受け、病院と同じような医療処置も行います。自宅で最期を迎えたいという希望に沿った看護を行います。

■訪問看護では、どのような看護をしてくれますか？

■医師の指示による医療処置

かかりつけ医の指示に基づく医療処置（点滴や注射等）

■療養上のお世話

身体の清拭、洗髪、入浴介助、食事や排泄などの介助・指導

■病状の観察

病気や障害の状態、血圧・体温・脈拍などのチェック

■医療機器の管理

在宅酸素、人工呼吸器などの管理

■ターミナルケア

がん末期や終末期などでも、自宅で過ごせるよう適切な看護

■床ずれ予防・処置

床ずれ防止の工夫や指導、床ずれの処置

■ご家族等への介護支援・相談

介護方法の助言やさまざまな相談対応

■訪問看護は、誰に相談したら受けられますか？

かかりつけの主治医や担当のケアマネジャー、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、市の介護保険や障害福祉の担当窓口等へ相談して下さい。

訪問看護を希望される方は、お気軽にご相談下さい

◆肝属郡医師会立訪問看護ステーション◆

電話番号：(0994) 36-8990



1.糖尿病とはどんな病気？

糖尿病とは、インスリンの作用が十分でないためブドウ糖が有効に使われずに、血糖値が高くなっている状態のことです。放置すると全身にさまざまな影響が出てきます。

糖尿病は、その原因により4つのタイプに分けられます

■ 1型糖尿病

インスリンを作る膵臓の細胞が何らかの原因でこわされることで、インスリンが作られなくなり、糖尿病になります。子どもや若年者に多くみられます。

■ 2型糖尿病

インスリンの分泌が少なくなったり、働きが悪くなるために起こります。おもに中高年以降にみられますが、若年者の発症も増加しています。日本の糖尿病患者さんの約90%が2型糖尿病とされています。

日本人は遺伝的にインスリン分泌が弱い人が多いといわれています。遺伝的な体質に過食（特に高脂肪食）、運動不足、肥満、ストレスなどの生活習慣や加齢といった要因が加わり、発症するとされています。このため、2型糖尿病は「生活習慣病」ともいわれるのです。また、肥満がなくても、内臓脂肪が増える「メタボリックシンドローム」と呼ばれる状態になると発症しやすくなります。

■ 特定の原因によるその他の糖尿病

遺伝子の異常によるもの、ほかの病気や薬剤に伴って起こるものがあります。

■ 妊娠糖尿病

妊娠中に初めて発見または発症した糖尿病に至っていない糖代謝異常のことをいいます。妊娠中はわずかな高血糖でも胎児に影響を与えるため、糖尿病ではなくても「妊娠糖尿病」と呼びます。

妊娠中に胎盤が作るホルモンが、インスリンの働きを抑える作用もあるため、十分なインスリンが作られない場合に血糖が上昇します。肥満、高齢妊娠、家族に2型糖尿病患者がいる、過去の妊娠で高血糖を指摘された場合に起こりやすいとされています。

2.糖尿病の症状

血糖値の高い状態が続くと、次のような症状があらわれます。しかし、軽症の糖尿病の場合、自覚症状がみられないことが多く、発見が遅れることがあります。

●尿の量が多くなる（多尿）

糖は尿に出るときに、同時に水分も一緒に出すために尿の量が多くなります。

●のどが渇いて、水分をたくさん飲む（口渇、多飲）

多尿のため脱水状態となり、のどが渇き、水分をたくさん飲みたくなります。

●体重が減る

糖が尿に出るために、体のたんぱく質や脂肪を利用してエネルギー源とするためです。

●疲れやすくなる

エネルギー不足と、体重減少により疲れを感じやすくなります。

3.糖尿病の合併症

自覚症状がないからと糖尿病を放置していると、高血糖は全身のさまざまな臓器を障害します。とくに冒されやすいのは、神経と血管を中心とした臓器で、神経障害、眼球の網膜に出血する網膜症、腎臓の機能が低下する腎症の三つが起こりやすく、これを三大合併症と呼んでいます。

■神経障害

全身の神経の働きが鈍り、さまざまな症状が現れます。主な症状は、足先や手先がしびれる、麻痺した感じがする、痛い、足が冷たい・ほてる、力がぬける、勃起障害（ED）、生理が乱れてくる、閉経が早い、便秘・下痢になりやすい、たちくらみがする、額や顔に汗をかきやすい、などです。

■網膜症

糖尿病による網膜症は成人後の失明の主要原因の一つで、年間約3,000人が糖尿病により光を失っています。症状は、視力が落ちる、物がゆがんで見える、目の前にひもや点が見える、視野が欠けるなどですが、高度の視覚障害に至る直前まで症状がないことも少なくありません

■腎症

腎臓の働きが低下してくると、だるい、疲れる、足がむくむ、貧血になる、吐き気がする、息苦しいなどの症状が現れますが、これらの症状が現れたときには腎機能はかなり低下していて、人工透析を受けないと生命を維持できない状態も近いといえます。年間1万人以上が、糖尿病による腎症が原因で人工透析を始めており、人工透析が必要になる原因の第一位を占めています。

4.糖尿病の治療

(1) 食事療法

糖尿病なら、食事療法は絶対に必要です。食事で余分なエネルギーをとってしまうと、それを処理するのは大変だからです。適切なエネルギー摂取量に抑えるほうが、血糖コントロールをより楽に行えます。実際、食事が乱れていれば、ほかの治療法の効果はあまり反映されません。その意味でも、食事療法は糖尿病治療の根幹となる治療法です。



(2) 運動療法

運動で体内に余分に溜まったエネルギーを消費すると血糖値は下がります。また、インスリンの細胞レベルでの働きが高まり（インスリン感受性が高くなり）、血糖コントロールがしやすくなります。さらに、血行がよくなる、ストレスが解消される、皮下脂肪が減る、骨格筋が増える、生活の活動度が高まるなど、多くの効果を得られます。



(3) 薬物療法

食事療法と運動療法だけではコントロールがうまくできない時、薬物療法を追加します。経口血糖降下薬（飲み薬）を用いる内服療法と、インスリンなどを注射で補充する自己注射療法との、二つがあります。



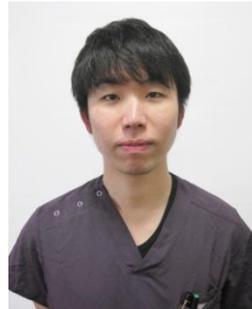
新任医師・新入職職員紹介



内科

かわしま よしひろ
川島 吉博

4月からお世話になっております。初めての土地と職場で慣れないこともあります。地域の方のお役に立てるように精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。



内科

しんち しゅうや
新地 秀也

鹿児島大学代謝内科4年目です。高齢者が多いと聞いておりましたが、想像以上でびっくりです。今後の糧となるように一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。何でも吸収していきたいので色々ご助言して頂けたら幸いです。

リハビリ室／理学療法士
上松 加奈



4月1日よりお世話になっております。効率的な仕事ぶり、充実した生活、キャリアウーマン目指して精一杯頑張ります！

リハビリ室／理学療法士
榮倉 崇



理学療法士13年目です。坊主頭で、第一印象は怖がられがちですが、全然大丈夫ですので遠慮せずに声をかけて下さい。

リハビリ室／作業療法士
森 聡美



新社会人となって1ヶ月経ちました。分からない事ばかりでご迷惑をお掛けしますが、今後ともご指導お願い致します。

リハビリ室／作業療法士
桑鶴 翔



入職して早くも1ヶ月が経ちました。まだまだ不慣れな事だらけです。1日でも早く沢山のことを覚え、日々学んで成長していきたいです。

リハビリ室／作業療法士
森永 麻衣子



慣れないことが多く迷惑ばかりおかけしていますが、元気よく笑顔で日々頑張りたいと思いますので、今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。地元垂水で成長します！

2階病棟／看護師
池田 典子



4月に入職しました。まだ慣れないことが多いですが、教えて頂きながら頑張っていきたいです。よろしくお願いいたします。

3 階病棟／看護師
原島 晴美



4 月からお世話になっております。まだまだ不慣れですが、頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

3 階病棟／看護師
岩坪 聡



4 月より入職致しました。前の病院勤務の時以上に皆様のお役に立てるよう頑張ります。宜しくお願い致します。

4 階病棟／看護師
中濱 美紅



初めまして！この度縁あって地元垂水に戻ってくることとなりました。一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。

4 階病棟／看護師
竹原 えりか



毎日、様々な業務を教えて頂きながら看護の難しさを痛感していますが、患者様に寄り添える看護を行えるよう頑張ります！

2 階病棟／看護補助者
原口 恵美



4 月より入職しました。持ち前の笑顔と前向きさで頑張ります。よろしくお願い致します。

4 階病棟／看護補助者
米田 早百合



4 月に入職してから、時の流れの早さに驚きを感じています。思いやりの気持ちを持って頑張っていきたいです。

事務部／総務課
松元 伸光



4 月から入職させて頂きました。年齢的に物覚えが悪くなってきておりますが、先輩方の足を引っ張らないよう精進して参ります。

医事課／医療相談員
山之口 廉



4 月より入職させて頂きました。分からないことが多々ありますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。



イベント ～病院の話題～

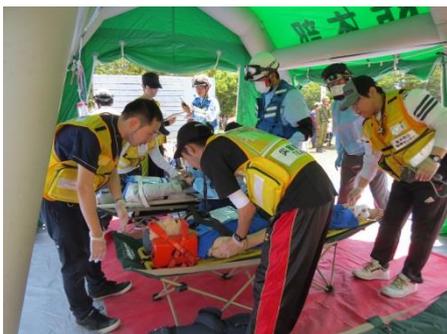
医療講演会



3月8日に垂水市市民館で行われた「チャレンジ！健康生活」教室にて、児島奈弥医師（内科）が糖尿病についての医療講演を行いました。

糖尿病は、自覚症状が少ない病気であること。また、慢性的に高血糖の状態が続き、さまざまな血管が長期にわたり冒されることでいろいろな病気を引き起こす血管病といえると説明。糖尿病の治療には、生活習慣の改善（食事療法・運動療法）が最も重要であると参加者へ呼びかけました。

垂水市総合防災訓練



平成29年度垂水市総合防災訓練が、5月20日に水之上公民館及び周辺地域で実施されました。訓練当日は、警察や消防、自衛隊など18機関約400人が参加。当院からも医師や看護師、事務職員が訓練に参加しトリアージや応急処置を担当しました。

昨年9月の台風16号で大きな被害が出た垂水市では、復旧工事はいまだ完了しておらず、今後、大雨への不安が広がっています。今回の防災訓練で学んだ事を災害時に活かせるように、病院全体で防災意識を高めていきたいと思ひます。

予約受付時間のご案内

月～金曜日	土曜日
14:00～17:00	8:30～12:30

※当院では全診療科予約制です。

※当日の診療に関するご相談や当日の予約時間変更に関するご連絡は、8:30から受付けています。

垂水市立医療センター 垂水中央病院

〒891-2124

鹿児島県垂水市錦江町1番地140

TEL: 0994-32-5211 FAX: 0994-32-5722 (総務課)

0994-32-5230 (医事課)

【E-mail】 tarumizuhp@tarumizumh.jp

【URL】 <http://tarumizumh.jp>